

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット仕様書(ver 3.0)

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマットについて

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマットは、2020年3月5日時点のGoogle社掲載のGTFSリファレンスを基に策定しています。

<https://developers.google.com/transit/gtfs/reference>

当リファレンスを基にフェリー・旅客船業界向けの語彙解釈、不要・適用する値のガイド、独自の項目の追加をし、GTFSの互換性を保つよう策定しています。

GTFSはコミュニティにより随時改定がされ、その最新版は2002年3月5日現在、下記が最新版となります。

<https://github.com/google/transit/tree/master/gtfs/spec/en>

当フォーマット仕様書の情報が古くなっていたり、GTFSについてより詳細な情報が必要となった場合には、これらのリファレンスを参照ください。

凡例

区分凡例	説明
必須	設定項目にある内容に従い、入力が必要な情報です
条件付き必須	記載不要条件に合致していれば入力は不要です。それ以外の場合は、設定項目にある内容に従い、必ず入力が必要な情報です
推奨	入力できない事情(公開できない、情報がない)がない限り、入力を求められる情報です
任意	情報がない、入力の仕方が分からない、作成が難しいのであれば、入力が不要な情報です 入力は可能だが、公開したくない場合も同様に入力は不要です
不要	フェリー・旅客船には存在しない、対応する情報がないなどの理由で入力が不要な情報です

用途	一般的な経路検索サービスに用いた場合にどのように使われるか、経路検索サービスの利用者がどう使うことを想定しているかを例示します。
----	--

	簡易作成ツールでの出力に対応しているファイル、項目です。項目名のみの出力は含まず、ツールからの入力で値が設定されるもののみとなります
--	--

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航事業者情報	agency.txt	必須	運航事業者の基本的な情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
agency_id	運航事業者ID	必須	運航事業者を識別するコードです	運航事業者の法人番号を記載します 運航事業者が組織内の一部署(役所の船舶課、漁連内の部署等)の場合、所属する組織の法人番号とします 法人番号を持たない組織または個人の場合、"運航事業者名"を入れてください	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
agency_name	運航事業者名	必須	運航事業者の一般的な名称です	乗客に通常案内している事業者名(ブランド名等含む)を入れてください 法人登記された正式な法人名である必要はありません	利用者がサービスで目にする事業者名は、このフィールドに入れた名称になります。
agency_url	運航事業者URL	条件付き必須	運航事業者の公式HPです	運航事業者が公式HPを持っていれば、そのURLを入れてください 公式HPを持たない場合、フェリー・旅客船事業についての情報(乗り場、時刻等)を掲載しているHPのURLを入れてください 記載不要条件：インターネットでの情報公開をしていない(電話、乗り場、地元観光施設等での案内のみ)	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、そのリンク先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合に参照してもらうためです。
agency_timezone	運航事業者タイムゾーン	必須	運航事業者が拠点を置く地点のタイムゾーンです	フェリー・旅客船情報では、「Asia/Tokyo」を指定します	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします
agency_lang	運航事業者言語	必須	運航事業者が主に扱う言語です	フェリー・旅客船情報では、「ja」を指定します	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします
agency_phone	運航事業者電話番号	推奨	運航事業者の電話番号です	乗船者が問い合わせをする電話番号を入れてください。ハイフンは入れても入れなくても構いません。 問い合わせ専用の電話番号がない場合、運航事業者の代表電話番号を入れてください	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その問い合わせ先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合にこの番号から電話してもらうためです。
agency_fare_url	乗船券インターネット購入URL	任意	インターネットから乗船券を予約、販売している場合、その予約、販売ページのURLです	乗船券をインターネット販売しているHPのURLをいれてください インターネット販売していない場合は記載不要です	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その乗船券購入先として設定されます。 利用者がこの航路に載ろうと思った際に、検索結果から楽に購入までいけるようになります。
ageynco_email	運航事業者連絡用メールアドレス	任意	運航事業者のメールアドレスです	乗船者が問い合わせをするEメールアドレスを入れてください 問い合わせ専用のEメールアドレスがない場合、運航事業者の代表Eメールアドレスを入れてください	会社情報といった画面があれば、そこに記載されます。あるいは検索結果に事業者名が出ていれば、その問い合わせ先として設定されます。 利用者が会社や運行についてさらなる情報を必要とする場合に参照してもらうためです。
作成例					
agency_id,agency_name,agency_url,agency_timezone,agency_lang,agency_phone,agency_fare_url,ageynco_email 123456789101,サンプルフェリー,http://www.sample_ferry.co.jp/,Asia/Tokyo,ja,03-1234-5678,,contact@sample_ferry.co.jp					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
港情報	stops.txt	必須	港の情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
stop_id	港ID	必須	港を一意に識別するコードです	港名を含めて分かりやすく、かつ他のstop_idと重複しないようなIDをつけます 詳しくは、下記図1-1、1-2、1-3を参照ください 循環航路などで同じ港に複数回寄港する場合、寄港する回数分定義が必要です	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_code	港番号	不要	いわゆる駅ナンバリングです	フェリー・旅客船情報では不要です	
stop_name	港名称	必須	港の名称です	港の名前を入力します。港を複数の乗り場に分ける場合でも、港名称はすべて同一の名称にします。	利用者がサービスで目にする港の名称は、このフィールドに入れた名称になります。
stop_desc	港付加情報	条件付き必須	港の特記事項です。湾内に複数の乗り場がある場合に必要となります。	本仕様においては、港内に複数の乗り場がある場合の乗り場名を入力します。 詳細な設定の仕方については下記を参照ください	港名称に連ねて使用されたり、港の詳細情報を表示した際に表示されます。
stop_lat	緯度	必須	港の緯度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します 例) 35.691(北緯35度41分27.6秒)	下記図1-1、1-2、1-3を参照	港を地図上で表示する際に港の位置を表すのに使用されます
stop_lon	経度	必須	港の経度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します 例) 139.692(東経139度41分31.2秒)	下記図1-1、1-2、1-3を参照	港を地図上で表示する際に港の位置を表すのに使用されます
zone_id	船賃識別ID	推奨	船賃計算用の港を識別するコードです	フェリー・旅客船情報では、stop_idと同じ値を入力します	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_url	港URL	任意	港/乗り場の案内HPです	港の案内をするHPがある場合、そのURLを入力します	港の詳細情報といった画面があれば、そこで使われます。 港へのアクセス等、このフォーマットでは規定しておらず、HPには載っている情報への接しやすくなります。
location_type	港区分	任意	港情報が港全体なのか、個々の乗り場なのかを示します	下記図1-1、1-2、1-3を参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
parent_station	港ターミナル情報	任意	港情報が個々の乗り場の場合に、どの港の乗り場なのかを示します	下記図1-2を参照	駅名の検索や港の情報では、港全体の情報が使われますが、検索結果や時刻表等では個々の乗り場の情報が使用されます。
stop_timezone	港タイムゾーン	任意	港が存在する地域のタイムゾーンです	国内の港の場合、「Asia/Tokyo」です。 国外の港の場合、それぞれの国・地域のタイムゾーンを入力します*1	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします
wheelchair_boarding	車いす情報	任意	港/乗り場の車いすの対応状況です	以下の値を入力します 0：車いすの対応状況が不明な場合 1：車いすのまま乗船可能な港/乗り場だが、事前連絡を要する場合 2：車いすのまま乗船可能な港/乗り場で、事前連絡が不要な場合 3：車いすのままでは乗船できない港/乗り場 4：状態の確認等を要するため、要事前相談	検索結果や港情報の画面で使われ、車いすの乗船者またはその介護者が参照します。 そのほか、サービス作成者が車いす利用者向けの専用機能の作成する際にも有用な情報です。
level_id	レベル識別ID	任意	levels.txtの項目を参照	levels.txtの項目を参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
platform_code	乗り場コード	任意	乗り場を番号で識別する場合に番号を指定します	港内の各乗り場を識別する番号などの値があれば入力します。	港名称に連ねて使用されたり、港の詳細情報を表示した際に表示されます。 現地の案内表記と併せて利用者が目的地を判別するのに有用な情報です。

【図1-1】港に乗り場が1つしかない場合の港情報の作り方

	以下のように作成します	
	stop_id	港名と同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_name	港名(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_desc	(入力なし)
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度
	zone_id	港名と同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_url	港を案内するHPのURL
	location_type	0
	parent_station	(入力なし)
	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)
	wheelchair_boarding	乗り場の車いす対応状況に応じた値

※港に乗り場が1つしかない場合は、乗り場の港情報のみ作ってください

【図1-2】 港に複数の乗り場があり、ターミナルが1つの場合の港/乗り場情報の作り方

		港全体	個々の乗り場
	stop_id	港名と同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)	港名+乗り場名(例：〇〇フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_name	港名(例：〇〇フェリーターミナル)	港名(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_desc	(入力なし)	乗り場名(例：高速船乗り場)
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度	乗り場の緯度
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度	乗り場の経度
	zone_id	(入力なし)	stop_idと同じ値(港名+乗り場名)(例：〇〇フェリーターミナル+高速船乗り場)
	stop_url	港を案内するHPのURL	(入力なし)
	location_type	1	0
	parent_station	(入力なし)	港全体のstop_idと同じ値(例：〇〇フェリーターミナル)
	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)
	wheelchair_boarding	港の車いす対応状況に応じた値	乗り場の車いす対応状況に応じた値

※港全体を示す港情報と、その港の中にある個々の乗り場を示す港情報をそれぞれ作成します。どちらかのみ作成ではありません

【図1-3】 港に複数の乗り場があり、ターミナルもそれぞれ存在する場合の港/乗り場情報の作り方

		港全体	
	stop_id	港名+乗り場名(例：〇〇フェリーターミナル+高速船乗り場)	
	stop_name	港名(例：〇〇フェリーターミナル)	
	stop_desc	乗り場名(例：高速船乗り場)	
	stop_lat	乗船券売り場、ターミナルの緯度	
	stop_lon	乗船券売り場、ターミナルの経度	
	zone_id	stop_idと同じ値(港名+乗り場名)(例：〇〇フェリーターミナル+高速船乗り場)	
	stop_url	港を案内するHPのURL	
	location_type	0	
	parent_station	(入力なし)	
	stop_timezone	Asia/Tokyo(国内の場合、国外の場合はそれぞれの国、地域のタイムゾーン)	
	wheelchair_boarding	乗り場の車いす対応状況に応じた値	

※ターミナル・乗り場ごとに港情報を作成します

作成例	〇〇港が図1-1(港に乗り場が1つしかない場合)、××港が図1-2(港に複数の乗り場と1つのターミナルがある場合)、△△港が図1-3(港に複数の乗り場とそれぞれのターミナルがある場合)の例
〇〇港,,〇〇港,,36.063,140.221,〇〇港,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/marumarukou.html,0,,Asia/tokyo,1	
××港,,××港,,36.0611,140.293,,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/batubatukou.html,1,,Asia/tokyo,2	
××港+乗り場A,,××港,乗り場A,36.0606,140.293,××港+乗り場A,,0,××港,Asia/tokyo,2	
××港+乗り場B,,××港,乗り場B,36.0610,140.294,××港+乗り場B,,0,××港,Asia/tokyo,2	
△△港+第一ターミナル,,△△港,第一ターミナル,36.0724,140.418,△△港+第一ターミナル,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/sankakukou1.html,0,,Asia/tokyo,3	
△△港+第二ターミナル,,△△港,第二ターミナル,36.0697,140.419,△△港+第二ターミナル,http://www.sample_ferry.co.jp/minato/sankakukou2.html,0,,Asia/tokyo,0	

情報内容	ファイル名	区分	概要		
航路情報	routes.txt	必須	航路の情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
route_id	航路ID	必須	航路を一意に識別するコードです	航路名称を含めて分かりやすく、かつ他のroute_idと重複しないようなIDをつけます 同じ航路でも旅客船と高速船があり運賃が異なる等の場合、route_idを分けて航路情報を作成する必要があります	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
agency_id	運航事業者ID	必須	agency.txtの項目を参照	agency.txtの項目を参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
route_short_name	航路略称	不要	航路の寄港地を含まず簡略に示す名称です	寄港する港名をroute_long_nameで示すことから、フェリー・旅客船情報においては不要とします。	
route_long_name	航路名称	必須	航路の寄港地を含む名称です	出発港名～経由港名～最終港名のように寄港する港名を"～"で繋いだ名称とします。 あるいは航路を示す名称があれば、その名称をつけます。	利用者がサービスで目にする航路の名称は、このフィールドに入れた名称になります。
route_desc	航路付加情報	任意	航路についての補足説明です	利用者に伝えたい航路に関する情報（注意喚起など）があれば設定します。	検索結果や時刻表で航路名に続いて、利用者への注意として表示されます。
route_type	交通機関種別	必須	交通機関の種別（バス、電車、フェリーなど）です	フェリー・旅客船情報では、「4」（フェリー）とします	検索結果で交通機関の種別を示すアイコンは、この値によって決まっています。
route_url	航路URL	任意	航路を案内する公式HPです	1つの事業者で複数の航路を運営しており、それぞれの航路の案内をするHPがある場合、そのURLを入力します それぞれの航路を案内するHPがない、1つの航路しか運航しておらず、事業者のHPと一致する場合は入力不要です。	航路の詳細情報といった画面があれば、そこで使われます。 航路で使用している船体(特に設備)等、このフォーマットでは規定しておらず、HPには載っている情報への接しやすくなります。
route_color	航路色	任意	航路の軌跡や航路名を表示する場合に背景色となる色の指定です	航路のシンボルカラーまたは、乗船客に案内している航路図での航路の色を指定します。 色は6桁16進数のRGBカラーで指定します。省略時は白（FFFFFF）となります。 例：FF0000(赤)	検索結果で航路を彩るのに使用されたり、他の航路や交通機関と色での視認性を高めるのに使われます。 そのほか、航路描画を地図上にする場合の線の色として使用されます。
route_text_color	航路文字色	任意	航路名などを表示する場合に用いられる色の指定です	route_color上に文字を表記したときに見やすい色を設定します。色は6桁16進数のRGBカラーで指定します。省略時は黒（000000）となります。	サービスによりますが、航路名称の背景に航路色を使う場合に航路名称の文字色として使用されます。 サービスによっては使わないこともあります。
route_sort_order	航路並び順の指定	任意	航路の一覧を表示する際にその並び順を指定します	整数で指定します。先に表示してほしい航路の数字を小さくします。	経路検索事業者で航路を並べて表示する際の並び順の基準に使用されます サービスによっては使わないこともあります。
作成例					
route_id,agency_id,route_short_name,route_long_name,route_desc,route_type,route_url,route_color,route_text_color 〇〇港～××港～△△港,123456789101,,〇〇港～××港～△△港,,4,http://www.sample_ferry.co.jp/timetable.html,0000FF,FFFFFF					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航便情報	trips.txt	必須	運行便の情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
route_id	航路ID	必須	routes.txtを参照	routes.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
service_id	運航日ID	必須	calendar.txt/calendar_dates.txtを参照	calendar.txt/calendar_dates.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
trip_id	運航便ID	必須	運航便を一意に識別するコードです	運行便名称と運航日を含み分かりやすく、他のtrip_idと重複しないIDをつけます 例) ブルードルフィン：2便+平日	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
trip_headsign	運航便行先	必須	運航便の寄港する港です	その運航便の出発港を除いた、寄港地を寄港順"～"で繋いで記載します。 例) 東京～徳島～北九州の航路の場合 徳島～北九州(下りの場合) 徳島～東京(上りの場合)	検索結果や時刻表でその便の行き先として、運航便名称に続いて使用されます。
trip_short_name	運航便名称	必須	運航便の愛称、名称です	航路名とは異なるその便固有の名称・愛称を設定します。 フェリー・旅客船情報においては船体名と便番号などを設定します。 例) ブルードルフィン：2便	検索結果や時刻表でその便を利用者が識別する名称として使われます。
direction_id	上下区分	任意	上り下りを分類するコード	航路名称で記載した順番に寄港する運航便は、0(下り)を入力します 航路名称で記載した順番と逆順に寄港する運航便は、1(上り)を入力します 例) 航路名称「東京～徳島～北九州」の場合 東京→徳島→北九州の順に寄港する運行便：0 北九州→徳島→東京の順に寄港する運行便：1	時刻表で航路の上下別に便と時刻を表示したい場合に、上下の判断をつけるのに使います。
block_id	運航便結合区分	任意	1つの運航便が続けて別の運航便として運行する場合に、運行便の接続をしめすコード	便1：港A～港B～港C～港A（港A：12:00着） 便2：港A～港B～港C～港A（港A：13:00発） 便3：港A～港B～港C～港A（港A：14:00発） 便4：港A～港B～港C～港A（港A：15:00発） と運航している航路において、便1の港Cで乗船し、便2の港Bで下船可能な場合に、便1と便2を結合しているとし、便1と便2が結合していることを示すコードを入力します。 このとき便2の港Cから便3の港Bも同様に乗下船可能であれば便1、便2、便3がすべて結合しているとします。 便3と便4の間を通しての乗船ができない場合、便1～便3までが一つの結合区間となり、これらの便に共通のblock_idを設定します。 block_idには、結合区間ごとに"連続"と1から始まる連番をつけてください。 例) 連続1、連続2	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_id	航路描画ID	任意	shapes.txtを参照	shapes.txtを参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
wheelchair_accessible	車いす利用区分	任意	その便に用いられる船体の車いす対応状況	0：車いすの対応状況が不明な場合 1：車いすのまま乗船可能な船体だが、事前連絡を要する場合 2：車いすのまま乗船可能な船体で、事前連絡が不要な場合 3：車いすのままでは乗船できない船体 4：状態の確認等を要するため、要事前相談	検索結果や港情報の画面で使われ、車いすの乗船者またはその介護者が参照します。 そのほか、サービス作成者が車いす利用者向けの専用機能の作成する際にも有用な情報です。
bikes_allowed	自転車持込区分	任意	自転車の持込可否の分類コード	0：自転車の持込可否の情報なし 1：少なくとも1台の自転車の持込可能 2：自転車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
payload_id	積載情報ID	任意	payload.txtを参照	payload.txtを参照	
ships_id	船舶情報ID	任意	ships.txtを参照	ships.txtを参照	
作成例					
route_id,service_id,trip_id,trip_headsign,trip_short_name,direction_id,block_id,shape_id,wheelchair_accessible,bikes_allowed,payload_id,ships_id ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：1便+全日,××港～△△港,サンプル丸：1便,0,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：3便+全日,××港～△△港,サンプル丸：3便,0,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,平日,サンプル丸：5便+平日,××港～△△港,サンプル丸：5便,0,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,土休日,サンプル丸：5便+土休日,△△港,サンプル丸：5便,0,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：2便+全日,××港～○○港,サンプル丸：2便,1,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,全日,サンプル丸：4便+全日,××港～○○港,サンプル丸：4便,1,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,平日,サンプル丸：6便+平日,××港～○○港,サンプル丸：6便,1,,0,1,サンプル丸+積載 ○○港～××港～△△港,土休日,サンプル丸：6便+土休日,○○港,サンプル丸：6便,1,,0,1,サンプル丸+積載					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
積載情報	payload.txt	任意	乗船客以外の車両や自転車、自動二輪車の積載、持込情報を記載します 旅客船扱いでこれらの積載、持込ができない場合はファイルは作成不要です		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
payload_id	積載情報ID	必須	積載情報を定義した一意のコード	航路の名称を含めて分かりやすく、他のpayload_idと重複しないIDをつけます 例) 北九州航路_旅客船積載 1	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
car_allowed	車両の積載区分	推奨	車両の積載が可能かを示します	0：車両の積載可否の情報なし 1：少なくとも1台の車両の積載可能 2：車両の積載不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
car_payload_limit	車両積載可能最大サイズ	推奨	積載可能な車両のサイズを示します	car_allowedが1の場合に搭載可能な車両の最大サイズをメートル単位で小数点付の数字で記載します。 car_allowedが0または2の場合は、空にします。	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
scooter_allowed	原動機付自転車持込区分	推奨	原動機付自転車が持込可能かを示します	0：原動機付自転車の持込可否の情報なし 1：少なくとも1台の原動機付自転車の持込可能 2：原動機付自転車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
motorcycle_allowed	自動二輪車の持込区分	推奨	自動二輪車が持込可能かを示します	0：自動二輪車の持込可否の情報なし 1：少なくとも1台の自動二輪車の持込可能 2：自動二輪車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。
large_motorcycle_allowed	大型自動二輪車の持込区分	推奨	大型の自動二輪車が持込可能かを示します	0：大型自動二輪車の持込可否の情報なし 1：少なくとも大型自動二輪車の持込可能 2：大型自動二輪車の持込不可	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動二輪車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
payload_desc	積載付加情報	任意	積載に関する補足情報	車両の積載について利用者に伝えたい情報を記述します。 例) 特殊な車両は積載できない場合がある、など	便の詳細を表示する画面で使われます。 自動二輪車での乗船者にとって、その航路が利用可能かを判断する材料となります。
作成例	車両の積載可能な最大サイズが13m以下の場合は、以下ようになります。				
payload_id,car_allowed,car_payload_limit,scooter_allowed,motorcycle_allowed,large_motorcycle_allowed,payload_desc 〇〇港～××港～△△港＋積載,1,13,0,1,1,1,特殊な車両は運賃が異なったり、割増しになる場合があります。無人航送もお受けいたします。					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
船舶情報	ships.txt	任意	船舶のスペックを記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
ships_id	船舶情報ID	必須	船舶情報を定義した一意のコード	航路の名称を含めて分かりやすく、他のships_idと重複しないIDをつけます 例) 北九州航路_旅客船情報 1	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
gross_tonnage	総トン数	推奨	船舶の容積	船舶のトン数を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
engine_power	主機関馬力	推奨	船舶の主機関馬力	船舶の主機関の馬力を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
number_of_engine	機関数	推奨	船舶の主機関の数	船舶に搭載されている主機関数を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
speed	航海速力	推奨	航海時の速力	船舶の航海速力を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
passenger_capacity	旅客定員	推奨	船舶に乗船できる旅客人数	船舶に乗船可能な旅客人数を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
shipping_truck	トラック搭載可能車両数	推奨	船舶に搭載できるトラックの車両数	船舶に搭載可能なトラック車両を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
shipping_car	乗用車搭載可能車両数	推奨	船舶に搭載できる乗用車の車両数	船舶に搭載可能な乗用車を数値で設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
launch_date	就航年月	推奨	船舶が就航を開始した年月	"元号のアルファベット 1 文字"+"年数"+"月数"	便の詳細を表示する画面で使われます。
equipment	設備	推奨	船舶の設備	船舶の設備を設定します	便の詳細を表示する画面で使われます。
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航時刻表情報	stop_times.txt	必須	運航便の時刻情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trip_id	運航便ID	必須	trips.txtを参照。	trips.txtを参照。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
arrival_time	到着時刻	必須	港に到着する時刻をhh:mm:ss形式で記載します	出発港では出発時刻と同じ値を設定します。時刻は24時間表記です。 夜通し運航する便については、出発港の出港日時を基準とした24時間表記となります。 例) 出発港を夜9時に出港、最終港には翌々日朝10時に到着の場合、58:00:00となります。	検索結果や時刻表で使用されます 多くの検索システムでは、この時間を「乗船者が港に降り立ち、自由に移動できる時間」と捉えています。
departure_time	出発時刻	必須	港を出発する時刻をhh:mm:ss形式で記載します	最終港では到着時刻と同じ値を設定します。時刻は24時間表記です。 夜通し運航する便については、出発港の出港日時を基準とした24時間表記となります。 例) 出発港を夜9時に出港、寄港地を翌日朝10時に出港の場合、34:00:00となります。	検索結果や時刻表で使用されます 多くの検索システムでは、この時間を「船が港を出港する時間（＝この時間までに乗船していればよい時間）」と捉えています。
stop_id	港ID	必須	stops.txtを参照	必ずlocation_typeが0のstop_idを設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_sequence	通過順序	必須	その港に着く順番を記載します	必ずその便の寄港順に整数を設定する必要があります。数字は1から始めます。 例) 東京～徳島～北九州(下り、左記の順に寄港)の場合は下記の設定になります。 東京の運行時刻情報：1 徳島の運行時刻情報：2 北九州の運行時刻情報：3 この航路の上り(逆順に寄港)の場合は下記の設定になります。 北九州の運行時刻情報：1 徳島の運行時刻情報：2 東京の運行時刻情報：3	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stop_headsign	運航便行先	不要	表示する行先の港名を設定	フェリー・旅客船情報ではtrip_headsignで寄港地の行き先を表現するため、stop_headsignは不要です	
pickup_type	乗船区分	任意	乗船の可否に関するコード	この港から乗船することが可能かどうかなどの設定をします。 0：乗船可能 1：乗船不可能 最終港については必ず1を設定する必要があります。 この港が下船専用である場合や寄港せず通過する場合に1を設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
drop_off_type	下船区分	任意	下船の可否に関するコード	この港で下船することが可能かどうかなどの設定をします。 0：乗船可能 1：乗船不可能 始発港については必ず1を設定する必要があります。 この港が乗船専用である場合や寄港せず通過する場合に1を設定します。 この場合の下船とは、寄港地に長時間停泊するため一時的な下船を許可する場合は含まず、乗船客がその港で下船し旅客でなくなることを意味します	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_dist_traveled	通算距離	不要	始発港から本港までの距離。単位はm	フェリー・旅客船情報では不要です。	
timepoint	発着時間精度	不要	発着時間が計画された時間かどうか設定	フェリー・旅客船情報では不要です。	

作成例	1便、2便、3便、4便は毎日運航。5便、6便は平日と土休日で寄港地と時間が異なる場合の例示です。また便によって上下船する乗り場を異なる場合の例示も兼ねています。
trip_id,arrival_time,departure_time,stop_id,stop_sequence,stop_headsign,pickup_type,drop_off_type,shape_dist_traveled,timepoint	
サンプル丸：1便+全日,10:00:00,10:00:00,○〇港,1,,0,1,,	
サンプル丸：1便+全日,10:40:00,11:00:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,	
サンプル丸：1便+全日,12:00:00,12:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,	
サンプル丸：3便+全日,17:00:00,17:00:00,○〇港,1,,0,1,,	
サンプル丸：3便+全日,17:40:00,18:00:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,	
サンプル丸：3便+全日,19:00:00,19:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,	
サンプル丸：5便+平日,24:00:00,24:00:00,○〇港,1,,0,1,,	
サンプル丸：5便+平日,24:40:00,25:00:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,	
サンプル丸：5便+平日,26:00:00,26:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,	
サンプル丸：5便+土休日,23:00:00,23:00:00,○〇港,1,,0,1,,	
サンプル丸：5便+土休日,23:40:00,24:00:00,××港+乗り場A,2,,1,1,,	
サンプル丸：5便+土休日,25:00:00,25:00:00,△△港+第一ターミナル,3,,1,0,,	
サンプル丸：2便+全日,14:00:00,14:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,	
サンプル丸：2便+全日,15:00:00,15:20:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,	
サンプル丸：2便+全日,16:00:00,16:00:00,○〇港,3,,1,0,,	
サンプル丸：4便+全日,20:00:00,20:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,	
サンプル丸：4便+全日,21:00:00,21:20:00,××港+乗り場A,2,,0,0,,	
サンプル丸：4便+全日,22:00:00,22:00:00,○〇港,3,,1,0,,	
サンプル丸：6便+平日,27:00:00,27:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,	
サンプル丸：6便+平日,28:00:00,28:20:00,××港+乗り場B,2,,0,0,,	
サンプル丸：6便+平日,29:00:00,29:00:00,○〇港,3,,1,0,,	
サンプル丸：6便+土休日,26:00:00,26:00:00,△△港+第二ターミナル,1,,0,1,,	
サンプル丸：6便+土休日,27:00:00,27:20:00,××港+乗り場B,2,,1,1,,	
サンプル丸：6便+土休日,28:00:00,28:00:00,○〇港,3,,1,0,,	

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航日区分情報	calendar.txt	必須	曜日単位で運航便の運航状況を設定します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
service_id	運航日ID	必須	運航日を定義する一意のコード	運航便(trip)に必ず定義されるコードであり、同一のコードを持つ便は同じ日程で運航する便となります。 全日、平日、土休日等運航日区分や、航路・船体の名称を含めるなどして分かりやすく、他のservice_idと重複しないIDをつけます。 運航日によって船体が変わる場合は船体ごとに定義するなど、作成しやすい単位で定義を分けて作成してください。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
monday	月曜日	必須		標準的な運転曜日を定義します。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
tuesday	火曜日	必須		0: 運転しない 1: 運転する	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
wednesday	水曜日	必須			この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
thursday	木曜日	必須		祝日の運休や追加の運航については後述のcalendar_dates.txtに定義します。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
friday	金曜日	必須		例えば、運航日IDを「平日」とする場合、月曜日から金曜日のフラグに「1」を設定し、土曜日と日曜日に「0」を設定します。後述のcalendar_dates.txtに連休日となる祝日を設定する必要があります。	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
saturday	土曜日	必須			この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
sunday	日曜日	必須		運航する曜日が不定な場合は、calendar.txtではなく後述のcalendar_dates.txtに記述します	この曜日に該当するときのみ、運航していると見なし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表に表示します
start_date	運航日区分有効期間	必須	この運航日IDが有効になる日付け	yyyyMMdd形式でこの運航日IDで運行される最初の年月日を示します。 例) 2019年3月1日から運航する場合、「20190301」	多くの経路検索サービスでは、この期間外の日付のとき、運航していないものとして扱います。
end_date	運航日区分有効期間	必須	この運航日IDが無効になる日付け	yyyyMMdd形式でこの運航日IDで運航される最後の年月日を示します。 例) 2019年2月28日まで運航する場合、「20190228」	多くの経路検索サービスでは、この期間外の日付のとき、運航していないものとして扱います。
作成例					
service_id,monday,tuesday,wednesday,thursday,friday,saturday,sunday,start_date,end_date 全日,1,1,1,1,1,1,1,20190301,20190531 平日,1,1,1,1,1,0,0,20190301,20190531 土休日,0,0,0,0,0,1,1,20190301,20190531					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航日情報	calendar_dates.txt	条件付き 必須	祝休日、不定期運航の運航便の運航状況を設定します 記載不要条件：お盆・年末年始、季節ダイヤ、ドック期間などでも航路自体の運休はなく、運航日区分に従った運行がされる場合。逆に言うと、これらの事情で運航日区分によらない運航・運休（お盆期間は平日でも休日扱いなど）がある場合は、必須となります。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
service_id	運航日ID	必須	calendar.txtを参照	calendar.txtでは運航する曜日を定義出来ますが、特定日は運休/運航する場合、calendar.txtに定義した運航日IDを記載し、このファイルでcalendar.txtの運休/運航日程を上書きする定義を作成できます。 calendar.txtに定義していない運航日IDを新たに定義し、運航日を設定することも可能です。 例）平日運航の便だが、2019年1月1日の祝日が火曜日のため、運休にする 決まった運航曜日がないか、隔週火曜日運行など、運行が毎週でなかったり、不定期運航だったりする場合	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
date	日付	必須	適用される日付け	yyyyMMdd形式で年月日を示します。 calendar.txtで定義した運航日IDに対して設定する場合は、運航日区分有効期間内の日付である必要があります。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
exception_type	運航、運休区分	必須	運航か運休かを設定	以下のコードを設定し、運航するか運休するか設定します。 1：運航 2：運休 なお、2：運休はcalendar.txtに運航日IDが存在する場合のみ設定可能です。	この日付に該当するときのみ、運航状況が変わるとみなし、経路検索にその運航便を用いたり、時刻表で表示しない判断に使います。
作成例	4/29,5/3,5/6が休日及び振替休日のため平日ですが、土休日扱いとしています。また5/22～6/4をドック入りとして、有効期間の5/31までの間すべて運休とする例示です。				
service_id,date,exception_type 全日,20190522,2 全日,20190523,2 全日,20190524,2 全日,20190525,2 全日,20190526,2 全日,20190527,2 全日,20190528,2 全日,20190529,2 全日,20190530,2 全日,20190531,2 平日,20190321,2 平日,20190429,2 平日,20190503,2 平日,20190506,2 平日,20190522,2 平日,20190523,2 平日,20190524,2 平日,20190527,2 平日,20190528,2 平日,20190529,2 平日,20190530,2 平日,20190531,2 土休日,20190321,1 土休日,20190429,1 土休日,20190503,1 土休日,20190506,1 土休日,20190525,2 土休日,20190526,2					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
船賃情報	fare_attributes.txt	必須	乗船客が支払う運賃を設定します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
fare_id	船賃ID	必須	船賃を定義した一意のコード	その運賃が有効な港間や航路名など、運賃が適用される区間が分かりやすいよう、かつ他のfare_idと重複しないIDをつけます 例) 東京～徳島～北九州の航路のうち、東京～北九州間の船賃の場合、「東京～北九州」 また、航路に対して複数の運賃区分を設定することも可能です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
price	船賃	必須	船賃の金額	一般的な利用船賃のみを定義します。 一般的な利用船賃とはおとなの旅客運賃のみ(車両や手荷物の積載、持込賃を含まない)の金額を指します。	検索結果で利用者に案内する運賃はこのフィールドの金額となります。
currency_type	通貨	必須	通貨種別	「JPY」（日本円）を定義します。	主に海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします 具体的には検索結果で表示する金額の単位を決めるのに用います
payment_method	支払いタイミング	必須	船賃を支払うタイミングを指定	船賃を支払うタイミングを設定します 0：下船時に支払い 1：乗船前/時に支払い（チケット購入含む）	国内の一般的な経路検索サービスではあまり用いません
tansfers	乗換	必須	乗り換え許可回数	フェリー・旅客船情報では、「0」とします	国内の一般的な経路検索サービスではあまり用いません
agency_id	事業者ID	条件付き必須	agency.txt参照	agency.txtに複数の事業者を設定した場合は必須となります。 この船賃情報を用いている運航事業者の運航事業者IDを記載してください。 記載不要条件：agency.txtに単一の事業者しか設定していない場合は、不要です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
transfer_duration	乗換有効期限	不要	乗り換え有効期間	フェリー・旅客船情報では、空白とします	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
cabin_name	船室名	条件付き必須	船室の名称	船室等、船賃の名称を設定します。 航路に対して船室等級が複数存在する場合は必須となります。 船室等級や名称が存在せず利用船賃が一律の場合は設定不要です。	経路検索事業者で船賃の名称を案内している場合、その名称に使用されます
作成例	〇〇港～××港は1,500円、〇〇港～△△港は3,000円、△△港～××港は2,000円の場合の例示です。				
fare_id,price,currency_type,payment_method,tansfers,agency_id,transfer_duration,cabin_name 〇〇港～××港+乗り場A,1500,JPY,1,0,, 〇〇港～××港+乗り場B,1500,JPY,1,0,, 〇〇港～△△港+第一ターミナル,3000,JPY,1,0,, 〇〇港～△△港+第二ターミナル,3000,JPY,1,0,, ××港+乗り場A～△△港+第一ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場A～△△港+第二ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場B～△△港+第一ターミナル,2000,JPY,1,0,, ××港+乗り場B～△△港+第二ターミナル,2000,JPY,1,0,,					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
船賃定義	fare_rules.txt	必須	船賃を特定するルールを定義します。 フェリー・旅客船情報では、港/乗り場間で船賃を特定します。 ひとつの事業者が一般的な旅客船と高速船とを運行し、両者で金額が異なる場合、乗り場に紐づけられたzone_idでルールを区別します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
fare_id	船賃ID	必須	fare_attributes.txt参照	fare_attributes.txt参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
route_id	航路ID	条件付き必須	routes.txt参照	記載不要条件：以下の事例に該当しなければ、入力は不要です。 ・ひとつの事業者で一般的な旅客船と高速船とを運行するなど、船体や寄港地の差による複数の運賃がある ・船賃が異なる航路の乗り場を分けていない 上記事例に該当する場合、船賃ごとに航路IDを分ける必要があります。それぞれの船賃に該当する航路IDを入力します。 例) 旅客船の航路と、高速船の航路とを分けた場合、この定義が高速船の船賃を特定するためのルールの場合、高速船の航路IDを入力	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
origin_id	乗船港の船賃識別ID	任意	港/乗り場に設定された船賃を特定するためのコードです	stops.txtにおけるzone_idの値を設定します。 fare_rulesで定義されたorigin_id、destination_idの組み合わせに対して船賃IDを割り当てます(route_idがある場合は、route_id含む)。 origin_id、destination_idの組み合わせに対して割当てることが可能な船賃IDは1つとなります。複数の船賃IDを設定することは出来ません。 (本情報の現行版では車両を積載した場合の船賃は規定しておりません)	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
destination_id	下船港の船賃識別ID	任意	同上	同上	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
contains_id	経由情報	不要	船賃を経由した港を含めて識別するコード	フェリー・旅客船情報では、不要です	
作成例					
fare_id,route_id,origin_id,destination_id,contains_id ○○港～××港+乗り場A,,○○港～××港,××港+乗り場A, ○○港～××港+乗り場B,,○○港～××港,××港+乗り場B, ○○港～△△港+第一ターミナル,,○○港～××港,第一ターミナル, ○○港～△△港+第二ターミナル,,○○港～××港,第二ターミナル, ××港+乗り場A～△△港+第一ターミナル,,××港+乗り場A,第一ターミナル, ××港+乗り場A～△△港+第二ターミナル,,××港+乗り場A,第二ターミナル, ××港+乗り場B～△△港+第一ターミナル,,××港+乗り場B,第一ターミナル, ××港+乗り場B～△△港+第二ターミナル,,××港+乗り場B,第二ターミナル,					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
車両及び特殊手荷物運賃情報	payload_fare_attributes.txt	必須	車両や特殊手荷物を持ち込む際に発生する追加運賃を設定します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
payload_fare_id	追加運賃ID	必須	追加運賃を定義した一意のコード	その運賃が有効な港間や航路名など、運賃が適用される区間が分かりやすいよう、かつ他のpayload_fare_idと重複しないIDをつけます 例) 東京～徳島～北九州の航路のうち、東京～北九州間の船賃の場合、「東京～北九州」 また、航路に対して複数の追加運賃区分を設定することも可能です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
price	追加運賃	必須	追加運賃の金額	必要な追加運賃を設定します。	
currency_type	通貨	必須	通貨種別	「JPY」（日本円）を定義します。	主に海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします 具体的には検索結果で表示する金額の単位を決めるのに用います
payment_method	支払いタイミング	必須	追加運賃を支払うタイミングを指定	追加運賃を支払うタイミングを設定します 0：下船時に支払い 1：乗船前/時に支払い（チケット購入含む）	国内の一般的な経路検索サービスではあまり用いません
tansfers	乗換	必須	乗り換え許可回数	フェリー・旅客船情報では、「0」とします	国内の一般的な経路検索サービスではあまり用いません
agency_id	事業者ID	条件付き必須	agency.txt参照	agency.txtに複数の事業者を設定した場合は必須となります。 この船賃情報を用いている運航事業者の運航事業者IDを記載してください。 記載不要条件：agency.txtに単一の事業者しか設定していない場合は、不要です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
transfer_duration	乗換有効期限	不要	乗り換え有効期間	フェリー・旅客船情報では、空白とします	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
payload_name	追加運賃名	必須	追加運賃の名称	追加運賃の名称を設定します。	車両の種類等も含めた以下のような記述をすることで運賃区分を判別します。 「車両3 m以上～4 m未満」 「自転車」 「自動二輪車750cc以上」
including_price_fare_id	船賃特例	条件付き必須	金額に船賃を含む場合の対象の船賃ID	追加運賃に船舶の利用船賃が含まれている場合、対象のfare_idを設定します。 利用船賃が含まれていない場合は設定不要です。	追加運賃の金額に船舶の利用船賃が含まれていることが確認できます。 また、複数の船室等級が存在する場合に対象がどの等級か判別できます。
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
車両及び特殊手荷物運賃定義	payload_fare_rules.txt	必須	車両や特殊手荷物を持ち込む際に発生する追加運賃を特定するルールを定義します。 フェリー・旅客船情報では、港/乗り場間で船賃を特定します。 ひとつの事業者が一般的な旅客船と高速船とを運行し、両者で金額が異なる場合、乗り場に紐づけられたzone_idでルールを区別します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
payload_fare_id	追加運賃ID	必須	payload_fare_attributes.txt参照	payload_fare_attributes.txt参照	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
route_id	航路ID	条件付き必須	routes.txt参照	記載不要条件：以下の事例に該当しなければ、入力は不要です。 ・ひとつの事業者で追加運賃の条件が異なる航路が複数存在する ・追加運賃が異なる航路の乗り場を分けていない 上記事例に該当する場合、追加運賃ごとに航路IDを分ける必要があります。それぞれの追加運賃に該当する航路IDを入力します。 例) 旅客船の航路と、高速船の航路とを分けた場合、この定義が高速船の追加運賃を特定するためのルールの場合、高速船の航路IDを入力	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
origin_id	乗船港の船賃識別ID	任意	港/乗り場に設定された船賃を特定するためのコードです	stops.txtにおけるzone_idの値を設定します。 fare_rulesで定義されたorigin_id、destination_idの組み合わせに対して船賃IDを割り当てます(route_idがある場合は、route_id含む)。 origin_id、destination_idの組み合わせに対して割当てることが可能な船賃IDは1つとなります。複数の船賃IDを設定することは出来ません。 (本情報の現行版では車両を積載した場合の船賃は規定しておりません)	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
destination_id	下船港の船賃識別ID	任意	同上	同上	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。 ただし、これらの値がないと経路検索サービス側で正しく運賃計算ができなくなります。
contains_id	経由情報	不要	追加運賃を経由した港を含めて識別するコード	フェリー・旅客船情報では、不要です	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
航路描画情報	shapes.txt	任意	航路が海図上で実際に航行するルートを描画するための情報です 緯度経度の地点間を直線で結び、海図上に航行ルートを描画します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
shape_id	航路描画ID	必須	航行ルートを一意に識別するコード	航行ルートは、同一の寄港地であれば同一のIDを割り当てます。 同一の航路でも運航便によって寄港地を通過し、航行ルートが異なる場合は、別の航路描画情報とし、別のIDを割り当てます。 航路名を含み分かりやすく、他のshape_idと重複しないIDをつけます	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_pt_lat	描画緯度	必須	航行ルートを描画する1点の緯度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します 例) 35.691(北緯35度41分27.6秒)	仕様上、最初のshape_pt_latは始発港の緯度とします。	地図に航路を描画するのに用います。 また経路検索サービスによっては、船の現在地・速度と組み合わせて、船の到着予測を計算するのに用います。
shape_pt_lon	描画経度	必須	航行ルートを描画する1点の緯度です。世界測地系の10進数形式（DEG形式）で入力します 例) 139.692(東経139度41分31.2秒)	仕様上、最初のshape_pt_lonは始発港の経度とします。	地図に航路を描画するのに用います。 また経路検索サービスによっては、船の現在地・速度と組み合わせて、船の到着予測を計算するのに用います。
shape_pt_sequence	描画順序	必須	ルートを描画する点の順序を昇順で入力します	港を出発し、終着港にいたるまでの航行ルートを描画する点を1から連番で整数値で設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
shape_dist_traveled	描画距離	不要	最初の港からの累積距離	フェリー・旅客船情報では、不要です	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
運航間隔情報	frequencies.txt	不要	運航便が決まった発着時刻によらず、10分間隔等、一定間隔で運航する時刻情報を持つ場合に使用します。 フェリー・旅客船情報では、不要です。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trip_id	運航便ID	必須	trips.txtを参照	stop_times.txtの代わりに設定します。基本的に一定の間隔で運航する場合に作成します。	
start_time	運航開始時刻	必須	運航を開始する時刻	午前0時を基準として、hh:mm:ssの24時間表記でその運航間隔で最初に運航を始める便の出港時刻を入力します	
end_time	運航終了時刻	必須	運航を終了する時刻	午前0時を基準として、hh:mm:ssの24時間表記でその運航間隔で最後に運航を始める便の出港時刻を入力します その日最後の運航間隔であれば、運航終了時刻を入れます。	
headway_secs	運航間隔	必須	その航路がどの程度の間隔で運航しているかを秒単位で指定します	運行間隔を秒で設定します。	
exact_times	案内精度	不要	運航間隔が正確かどうかを指定します	フェリー・旅客船情報では、不要です	
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
乗り継ぎ情報	transfers.txt	任意	港/乗り場間の乗り継ぎに関する情報です 港に複数の乗り場があり、港で航路を乗り継ぐことが想定される場合に使用します。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
from_stop_id	乗継元港ID	必須	stops.txtのstop_idと同じです。	港に複数の乗り場がある場合、そのうち1つの港IDを設定します	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
to_stop_id	乗継先港ID	必須	同上	港に複数の乗り場がある場合、from_stop_idと異なる乗り場の港IDを設定します from_stop_idとto_stop_idは方向性があるため、from_stop_idとto_stop_idを設定した乗り場の組み合わせは、from_stop_idとto_stop_idを逆にした定義も合わせて必要です。 例) from_stop_id：「港A＋旅客船乗り場」、to_stop_id：「港＋高速船乗り場」 from_stop_id：「港A＋高速船乗り場」、to_stop_id：「港＋旅客船乗り場」 （この逆順の組み合わせが必要）	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
transfer_type	乗継タイプ	必須	乗り継ぎの種類を指定します。	異なる乗り場間での乗り継ぎ時の設定をします。 0：異なる航路を乗り継ぐのを推奨する地点 1：異なる航路を乗り継ぐのにあたり、乗り継ぎ先の運航便は乗り継ぎ元の便の到着を待って出港する 2：航路の乗り継ぎが可能だが一定の時間が必要 3：航路間の乗り継ぎは不可能、推奨しない 設定例) 港A（第1のりば）と港A（第2のりば）間のtransfer_typeを2とする 便1：港B→港A（第1のりば） …15:00 着 便2：港A（第2のりば）→港C …15:15 発 スケジュール上は便1と便2は乗り継ぎが可能であるが、港A（第1のりば）と港A（第2のりば）に乗継タイプ2を設定し、乗継に掛かる時間（手続き等含め）を1800秒（30分）とした場合、乗り継ぐことが出来なくなる。	このフィールドの設定があると経路検索サービスでの運航便の乗継が正確になります。 ない場合、港間の移動に要する時間を考えると本来は乗り継げないのに、あたかも乗り継ぎできるような検索結果がでることもあります。
min_transfer_time	乗継時間	条件付き必須		transfer_typeを2にした場合のみ設定。乗継に掛かる秒数を設定する。 記載不要条件：transfer_typeが0,1,3の場合	サービス内部で使われる他、経路検索事業者のサービスの結果で乗換時間として表示されることがあります。
作成例					
省略					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
経路情報	pathways.txt	任意			
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
pathway_id	経路情報識別ID	必須	経路パターンを定義する一意のコード	他のpathway_idと重複しないIDをつけます。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
from_stop_id	港ID	必須	stops.txtのstop_idと同じです	港に複数の乗り場や地点がある場合、そのうち1つの港IDを設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
to_stop_id	港ID	必須	stops.txtのstop_idと同じです	港に複数の乗り場や地点がある場合、from_stop_idと異なる港IDを設定します。 なお、同じ from_stop_id から同じ to_stop_id に複数の経路を指定することも可能です。たとえば、進行方向の異なるエスカレーターが2本並んでいる場合や、階段とエレベーターのどちらでも同じ場所に移動できる場合などがあります。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
pathway_mode	経路種別	必須	地点間の経路の種類を指定します	1：通路 2：階段 3：動く歩道 4：エスカレーター 5：エレベーター 6：改札（支払いゲート）。運賃の支払い証明が必要な構内エリアへの入口。通常は、物理的なゲートが存在します。 通常改札によって、運賃を支払った人のみが入れる構内のエリアとそうでないエリア、あるいは運賃の異なるエリアが分けられています。この情報を指定することで、構内の正しいルートを案内し、乗客が不要な支払いを迫られる事態を避けることができます。 7：出口。構内の運賃の支払い証明が必要なエリアから出て、運賃の支払い証明が不要なエリアに入るための経路です。	移動経路の状況を利用者がより詳細に把握することができます。
is_bidirectional	一方通行	必須	経路の進行方向を指定します	0：一方通行の経路。from_stop_id から to_stop_id の方向にのみ進むことができます。 1：双方向の経路。どちらの方向にも進むことができます。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
length	経路距離	任意	経路の距離を指定します	経路の水平方向の距離をメートル単位で指定します。 距離は、始点となるfrom_stop_idの場所から、終点となるto_stop_id の場所までで判定します。 pathway_mode が1（通路）、6（改札）、7（出口）の場合に、このフィールドを指定することが推奨されています。	移動経路の概要として表示されることがあります
traversal_time	移動平均時間（徒歩）	任意	経路の徒歩移動時間を指定します	この経路を徒歩で移動するのに必要な時間を秒数で指定します。 pathway_mode が3（動く歩道）、4（エスカレーター）、5（エレベーター）の場合など、機械式の経路では、このフィールドを指定することが推奨されています	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
stair_count	段数	任意	経路に存在する階段の段数を指定します	経路に段差が存在する場合に段数を数値で指定します。 正の値の場合は、from_stop_id から to_stop_id の方向に向かう際に階段を上ることを意味します。 負の値の場合は、from_stop_id から to_stop_id の方向に向かう際に階段を下ることを意味します。 pathway_mode が2（階段）および4（エスカレーター）の場合に、このフィールドを指定することが推奨されています。	移動経路の状況を利用者がより詳細に把握することができます。
max_slope	スロープの最大勾配	任意	経路の最大勾配率を指定します	経路が水平でない場合に最大勾配率を浮動小数で指定します。 正の値の場合は、from_stop_id から to_stop_id の方向に向かう際に上り坂であることを意味します。 負の値の場合は、from_stop_id から to_stop_id の方向に向かう際に下り坂であることを意味します。 このフィールドは、pathway_mode が1（通路）および3（動く歩道）の場合にのみ使用します。	たとえば、米国の場合、自走式の車椅子で通行可能と判断される最大勾配率は0.083（8.3％）です。これは、水平方向に1 m 進むごとに垂直方向に高さが0.083 m 増加することを意味します。
min_width	経路の最小の幅	任意	経路の最小幅を指定します	経路を移動する際に通路が最も狭い箇所の幅をメートル単位で指定します。	通路が極端に幅が狭い場合などに車椅子利用者などが予め状況を把握できます。
signposted_as	案内表示（順方向）	任意	構内に掲げられている案内板の内容を指定します	経路を移動する際、利用者が目にする案内版に記載されている乗り換えの経路情報の内容をテキストで指定します。 from_stop_id から to_stop_id の方向に向かう際の情報です。	移動経路の状況を利用者がより詳細に把握することができます。
reversed_signposted_as	案内表示（逆方向）	任意	同上	こちらはto_stop_id からfrom_stop_id の方向に向かう際の情報です。	移動経路の状況を利用者がより詳細に把握することができます。

情報内容	ファイル名	区分	概要		
階定義	levels.txt	任意	施設の中においての階数を定義します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
level_id	階識別ID	必須	建物の階層を定義する一意のコード	他のlevel_idと重複しないIDをつけます。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
level_index	階順序	必須	他の階との相対的な位置関係を指定します	建物内部の階層を浮動小数で指定します。 数字が大きいほど上にある階と見なされます。 地上と同じ階層の値は0。地上より上の階には正の値、地下の階には負の値を設定します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
level_name	階表記	任意	階層の名称を指定します	建物内部の階層の名称を指定します。	このフィールドは、エレベーターを使って「中2階」、「プラットフォーム」、「-1」に移動する場合など、エレベーターを使用する経路の指定に役立ちます。

情報内容	ファイル名	区分	概要		
提供情報	feed_info.txt	必須	フェリー・旅客船情報を作成した組織や作成したデータについての情報を記載します		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
feed_publisher_name	公開組織名	必須	データを公開する組織の名称です	データを公開する組織の名称を記載します。 運航事業者が他組織に作成や公開を委託した場合、公開を委託された組織の名称となります。運航事業者自身で公開する場合は、運航事業者自身の法人登記名を記載します。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
feed_publisher_url	公開組織URL	条件付き必須	データを公開する組織の公式HPです	データを公開する組織の公式HPを記載します。 運航事業者が他組織に作成や公開を委託した場合、公開を委託された組織の公式HPとなります。運航事業者自身で公開する場合は、運航事業者自身の公式HPを記載します。 記載不要条件：データを公開する組織の公式HPがない場合	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
feed_lang	データ言語	必須	このデータで主に使われる言語です	フェリー・旅客船情報では、「ja」とします	海外の経路検索事業者がこのデータを扱う際に参考にします
feed_start_date	データ有効期間	必須	このデータが正しさを保証できる期間の開始日です	データに入力した時刻や船賃が正しいといえる期間をyyyyMMdd形式で入力します	経路検索サービスでは、多くの場合「時刻が正確と保証できる期間」を表示しており、その期間として用います。 この期間に外れる日の場合、calendar.txtの定義ならば、通年おおむね運航しているとみなし、その定義を経路検索や時刻表の表示に用います。
feed_end_date	データ有効期間	必須	このデータが正しさを保証できる期間の終了日です	データに入力した時刻や船賃が正しいと保証しきれなくなる期間をyyyyMMdd形式で入力します。 通常、ドック期間や燃料価格の変更があるため、それらを計画している期間の最終日となります	経路検索サービスでは、多くの場合「時刻が正確と保証できる期間」を表示しており、その期間として用います。 この期間に外れる日の場合、calendar.txtの定義ならば、通年おおむね運航しているとみなし、その定義を経路検索や時刻表の表示に用います。
feed_version	フォーマットversion	任意	標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマットの対応バージョンです		経路検索サービス事業者がデータの扱い方の判断として用います
feed_contact_email	公開組織Eメール	任意	情報を作成、公開する組織のメールアドレスです	データを公開する組織のメールアドレスを記載します。 このメールアドレスは、公開したフェリー・旅客船情報のデータについて問い合わせを受け付けるメールアドレスとしてください。	経路検索サービス事業者がデータについて確認や疑問があった場合の連絡先として用います。 経路検索サービスの利用者が見える画面では使われません。
feed_contact_url	公開組織問い合わせHP	任意	情報を作成、公開する組織の問い合わせページです	公開したフェリー・旅客船情報のデータについて、HPでの問い合わせ受付等をする場合にそのURLを入力します。 公開するデータ以外の一般的な問い合わせ対応のページのURLではないことにご注意ください。	経路検索サービス事業者がデータについて確認や疑問があった場合の連絡先として用います。 経路検索サービスの利用者が見える画面では使われません。
作成例	データを作成し公開する会社がサンプルフェリーとは異なる会社の場合の例示です。				
feed_publisher_name,feed_publisher_url,feed_lang,feed_start_date,feed_end_date,feed_version,feed_contact_email,feed_contact_url サンプルフェリーシステム株式会社,http://www.sample-ferry-system.com,ja,20190301,20190531,,opendata@sample-ferry-system.com,http://www.sample-ferry-system.com/ferry_data/contact.html					

情報内容	ファイル名	区分	概要		
翻訳情報	tranlations.txt	必須	港名や航路名など結果に表示される項目の多言語の情報です 日本語名とそのよみまでは必須です。それ以外の英語名等多言語表記については、入力は任意です。		
フィールド名	日本語名	区分	概要	設定項目	用途
trans_id	翻訳元日本語	必須	翻訳元となる日本語の文字列を入力	結果に表示される以下の項目を設定します agency_name, agency_url, agency_fare_url stop_name, stop_desc, stop_url route_short_name, route_long_name, route_desc, route_url trip_headsign, trip_short_name, payload_desc, stop_headsign 提供していない項目については、設定不要です。また提供している項目でも多言語の翻訳情報がないものは提供不要です。	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
lang	言語	必須	ja,ja-HrKt,enといった言語略称*2	translationsには必ず「ja」（名称）と「ja-HrKt」（よみがな）も定義してください。 jaの翻訳先言語(translations)は必ずtrans_id(翻訳元日本語)と同じになりますが、表示する名称をtranslationsのみに依存する処理をする利用者の場合に元の名称が表示されなくなることがあります。 以下、代表的な言語指定を記載します ja：日本語 ja-HrKt：日本語ひらがな、カタカナ en：英語 ko：韓国語 zh-Hans：中国語簡体字 zh-Hant：中国語繁体字	サービス内部で使用され、利用者に見える画面では使われません。
translation	翻訳先言語	必須	翻訳先として置き換える各言語の文字列を入力	項目の対象言語で記載します ja-HrKtを指定した項目の場合は、ひらがなでよみを記載します	利用者に見える画面全般で、元の日本語名称等をこのフィールドに設定した表記に置き換えます。 またよみがなについては、経路検索事業者で港名を検索する機能でよみ入力を可能にするために使われます。

作成例	
trans_id,lang,translation	
サンプルフェリー,ja,サンプルフェリー	
サンプルフェリー,ja-HrKt,さんぶるふえりー	
サンプルフェリー,en,Sample Ferry	
http://www.sample_ferry.co.jp/,ja,http://www.sample_ferry.co.jp/	
http://www.sample_ferry.co.jp/,en,http://www.sample_ferry.co.jp/en/	
〇〇港,ja,〇〇港	
〇〇港,ja-HrKt,まるまろう	
〇〇港,en,Maru2 Port	
××港,ja,××港	
××港,ja-HrKt,ばつばつこう	
××港,en,Batsu2 Port	
乗り場A,ja,乗り場A	
乗り場A,en,Boarding Bridge A	
乗り場B,ja,乗り場B	
乗り場B,en,Boarding Bridge B	
△△港,ja,△△港	
△△港,ja-HrKt,さんかくさんかくこう	
△△港,en,Sankaku2 Port	
第一ターミナル,ja,第一ターミナル	
第一ターミナル,en,Terminal 1	
第二ターミナル,ja,第二ターミナル	
第二ターミナル,en,Terminal 2	
〇〇港～××港～△△港,ja,〇〇港～××港～△△港	
〇〇港～××港～△△港,ja-HrKt,まるまろう～ばつばつこう～さんかくさんかくこう	
〇〇港～××港～△△港,en,Maru2-Batsu2-Sankaku2 Line	
××港～△△港,ja,××港～△△港	
××港～△△港,en,Batsu2-Sankaku2	
△△港,ja,△△港	
△△港,en,Sankaku2	
××港～〇〇港,ja,××港～〇〇港	
××港～〇〇港,en,Batsu2-Maru2	
サンプル丸：1便,ja,サンプル丸：1便	
サンプル丸：1便,ja-HrKt,さんぶるまるいちびん	
サンプル丸：1便,en,Sample-maru No.1	
サンプル丸：3便,ja,サンプル丸：3便	
サンプル丸：3便,ja-HrKt,さんぶるまるさんびん	
サンプル丸：3便,en,Sample-maru No.3	
サンプル丸：5便,ja,サンプル丸：5便	
サンプル丸：5便,ja-HrKt,さんぶるまるごびん	
サンプル丸：5便,en,Sample-maru No.5	
サンプル丸：2便,ja,サンプル丸：2便	
サンプル丸：2便,ja-HrKt,さんぶるまるにびん	
サンプル丸：2便,en,Sample-maru No.2	
サンプル丸：4便,ja,サンプル丸：4便	
サンプル丸：4便,ja-HrKt,さんぶるまるよんびん	
サンプル丸：4便,en,Sample-maru No.4	
サンプル丸：6便,ja,サンプル丸：6便	

*1 国/地域ごとのタイムゾーン https://ja.wikipedia.org/wiki/List_of_tz_database_time_zones

*2 言語略称 <https://www.iana.org/assignments/language-subtag-registry/language-subtag-registry>